

## ディスコグラフィー掲載

### ディスコグラフィー【2019No.162】(HP 掲載)

分類：CD

作曲家：ベートーヴェン他

曲：交響曲第3番変ホ長調 Op.55『英雄』他

演奏：エサ=ペッカ・サロネン（指揮）シンフォニア・グランジュ・オ・ラック

発売：NAXOS DOMESTIC

No.：NYCX-10090

概要：

[エサ・ベッカ・サロネン指揮フィルハーモニアの演奏会](#)で求めてきたCDです。



演奏：

エサ=ペッカ・サロネン（指揮）シンフォニア・グランジュ・オ・ラック

収録曲目：

ベートーヴェン：交響曲第3番変ホ長調 Op.55『英雄』

リヒャルト・シュトラウス：メタモルフォーゼン

録音時期：2018年7月

録音場所：フランス、エヴィアン、ラ・グランジュ・オ・ラック

ネット上に解説や録音場所の画像、YouTubeのサンプル動画の情報が 있습니다。

「日本語解説付き ロストロポーヴィチの魂を引き継ぐ音楽祭

サロネンによる『英雄』と『メタモルフォーゼン』が登場！

毎年夏にフランスはエヴィアンで行われる音楽祭、「ランコントル・ミュージカル・デヴィアン」2018年のライブ。この音楽祭はダノンの創業者アントワーヌ・リプーにより始められ、彼の友人であったロストロポーヴィチを音楽監督に招き、やがてヨーロッ

パ屈指の音楽祭へと成長しました。

パトリック・ブションの設計により 1993 年に竣工したホール「ラ・グランジュ・オ・ラック」は、巨大な穀物倉庫を思わせる木の外観がまず目を引きますが、内装まで木材で出来ており、ステージ後方の白樺の装飾も相まって、森の中にいるような、あるいは日本の古い劇場にも通じるような温かい作りとなっています。またそれはあたかもチェロの内部にいるようでもあり、天井一面に貼られたアルミ板が唯一の反響素材として、素晴らしい音響を作り出しています。

このホールに 2018 年、ヨーロッパ各地の有名オーケストラから優秀な奏者が集まった新しいオーケストラが誕生し、音楽祭の終盤にその結成コンサートがサロネンの指揮により開催されました。このアルバムはその時の模様を収録したライブで、ベートーヴェンの『英雄』をメインに、その葬送行進曲の動機を用いたリヒャルト・シュトラウスの沈痛な『メタモルフォーゼン』を収録。木のホールの豊かな響きを深く呼吸するような温かみと大きなスケール、若々しい切れ味を併せ持った快演です。(輸入元情報)

写真にあるように、森に囲まれた木のホールでのライブ演奏ということで、柔らかでしなやかな音がします。本 CD の演奏の様子がわかる[サンプル動画](#)もあります。



メタモルフォーゼンの正式な題名は、『メタモルフォーゼン〜23の独奏弦楽器のための習作』ということで、大戦による文化の喪失を題材にした曲とのことです。R.シュトラウスの曲は、大向こうを唸らせるような派手で煌びやかなものが多いのですが、この曲は、なんとも重苦しい雰囲気が漂い、実際に森の中の木のホールで聴いたらどんな印象だろうかと考えてしまいます。

英雄の方は、さすがに木のホールの演奏らしく、弦や木管の柔らかい響きに耳が行ってしまいます。

サロネンの演奏会では、派手な春の祭典とショスタコーヴィチのV協奏曲でしたが、英雄のようなオーソドックスな曲やメタモルフォーゼンのような重苦しい曲まで、多様な表現をこなせるようです。

以上